

スティールパンでカリブの風を

白井ゆかさん
厚芝糸子さん

です。カリブ海で唯一の石油産出国であるトリニダード・トバゴでは、ドラム缶は馴染みの廃材で、そのドラム缶を輪切りにして表面をたたき、音程を作ったものがこの楽器なのです。

ド・トバゴでは、ドラム缶はお馴染みの廃材で、そのドラム缶を輪切りにして表面をたたき、音程を作ったものがこの楽器なのです。

「すっかりはまっています。演奏を初めて聴いたのは、ニューヨークの地下鉄でした。次の出会いはワーキングホリデーで滞在していたカナダ、路上演奏者が港で演奏していたのです。そこで弟子入りをお願いしてー」今はシックス・ベースという一番大きいスティールパンを演奏しています。

トリニダード・トバゴは、十五世紀末からスペインついでイギリスの植民地に、そしてアメリカの軍事基地だった島です。スティール

ルパンは貧困と抑圧の中から生まれたと言われます。

「スティールパンの魅力を聞きました。楽器の音はいつか聞いた記憶があったし、もともと打楽器は好きでした。たまたまカルチャースクールをのぞいたところ、そこにあったのがスティールパンを演奏しています。」

厚芝さんはこう話します。「演奏を初めて聴いたのは、ニューヨークの地下鉄でした。次の出会いはワーキングホリデーで滞在していたカナダ、路上演奏者が港で演奏していたのです。そこで弟子入りをお願いしてー」今はシックス・ベースという一番大きいスティールパンを演奏しています。

「スティールパンの魅力は何と言っても音。癒されるやさしい音色と、百人編成のオーケストラのパワフルな音、その二面性が魅力」と二人はこもこもに語ります。八月のスティールパン・フェスタには全国から集まったオーケストラが、横浜の赤レンガ倉庫や山下公園などで華麗な演奏を展開します。

婦民コンサート出演者は九人、楽器に触ってみる体験コーナーなどもあるとのことですよ。



演奏するパンランド・スティール・オーケストラ

年末恒例の婦民コンサート、今年は十二月二十四日、パンランド・スティール・オーケストラによるスティールパンの演奏です。

スティールパン（スティールドラム）は、カリブ海の島々の南端に位置する双子の島、トリニダード・トバゴで一九四〇年代に生まれました。ドラム缶から作られた独特の倍音を持つメロディー楽器

横濱市に練習中のメンバーを訪ね、白井ゆかさんと厚芝糸子さんからスティールパンの魅力を聞きました。「楽器の音はいつか聞いた記憶があったし、もともと打楽器は好きでした。たまたまカルチャースクールをのぞいたところ、そこにあったのがスティール

「スティールパンの魅力を聞きました。楽器の音はいつか聞いた記憶があったし、もともと打楽器は好きでした。たまたまカルチャースクールをのぞいたところ、そこにあったのがスティール

こんにちは

ロディー楽器